

令和4年度

学校関係者評価結果報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和5年5月

公益財団法人 中国四国酪農大
学校関係者評価委員会

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の趣旨

中国四国酪農大学校における学校関係者評価の目的は、大学校が実施した自己評価結果を関係者評価委員会へ報告し、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、指導助言を得て教育活動及び学校運営の改善を図ることである。

2. 学校関係者評価委員会の審議事項

- (1) 実施体制、実施方法及び評価項目について
- (2) 自己評価の結果および今後の改善方策について
- (3) 令和5年度の重点取組目標と計画について
- (4) 学校関係者評価報告書の作成及び公表方法
- (5) その他審議が必要とされる事項

3. 基本方針

大学校における学校関係者評価は文部科学省生涯学習政策局『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本とする。

4. 自己評価の仕方

大学校は学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和4年度自己評価を実施した。

自己評価の点検項目は、10分類59項目である。『令和4年度自己評価集計結果』には、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）を示した。

また、項目ごと、職員の記載した現状及び問題点と改善策を記載し、自己評価委員会の審議を経て学校関係者評価委員に提出した。

5. 自己評価の実施

期間：令和5年2月8日～2月15日

対象：パートを除く教職員（事務職員も含む）14名

回答数：14名

6. 自己評価委員会の開催

令和5年5月24日

自己評価委員会 名簿

| | | |
|-----|-------|------|
| 委員長 | 校長 | 菱川雅弘 |
| 委員 | 副校長 | 中村浩三 |
| 〃 | 教務課長 | 関 哲生 |
| 〃 | 第1牧場長 | 高見奈々 |
| 〃 | 第2牧場長 | 芦田草太 |
| 〃 | 総務係長 | 有富英美 |

II 学校関係者評価委員 名簿

| | |
|--------------------------------------|------|
| 酪農・畜産関係団体関係者：全国酪農業協同組合連合会大阪支所中四国事務所長 | 瀧本慎也 |
| 大学校同窓会長（卒業生代表）：中国四国酪農大学校同窓会長 | 小谷 徹 |
| 農業高等学校関係者代表：岡山県立高松農業高等学校校長 | 三輪 貴 |
| 地域住民代表：おかやま酪農業協同組合蒜山事務所長 | 山本恭子 |
| 県行政担当者：岡山県農林水産部畜産課総括参事 | 守屋吉英 |

III 学校関係者評価委員会の実施状況

自己評価結果の解説とその評価

令和5年5月30日

欠席委員：なし

学内関係者：校 長 菱川雅弘

副 校 長 中村浩三

教務課長 関 哲生

学校関係者評価委員会の進行状況

学校の概要及び教育活動の説明

自己評価結果の説明と質疑

評価結果の判定（評価シート記入）

IV学校評価委員会評価結果

1. 評価の仕方

学校関係者評価委員は、大学校の説明を受け、自己評価集計結果の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解したうえで、大学校が行った自己評価結果について、A適切である Bまあ適切である C若干の改善が必要である D改善が必要である の4分法にて評価を行い、その理由や意見を書面により表した。

2. 項目別評価結果と主なコメント

(1) 教育理念・目的

A適切である 3人 Bまあ適切である 2人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

・酪農に対して情熱をもった方々が信念を持って取り組んでいる。

(2) 学校運営

A適切である 3人 Bまあ適切である 2人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

・県と同様の規定で適切に運営をされている。

(3) 教育活動

A適切である 2人 Bまあ適切である 2人 C若干の改善が必要である 1人 D改善が必要である

- ・より良い教育活動ができるよう、時代のニーズに沿ったカリキュラムの見直しを望む。
- ・外部講師の積極的な活用など、関係機関との連携強化が必要。

(4) 学修成果

A適切である Bまあ適切である 5人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

- ・卒業生のフォローアップは、業界の人材確保に繋がるので取組強化を望む。

(5) 学生支援

A適切である 2人 Bまあ適切である 2人 C若干の改善が必要である 1人 D改善が必要である

- ・国の高等教育の修学支援制度については、早期の対象校認定を望む。
- ・卒業生のフォローアップ体制の充実を望む。

(6) 教育環境

A適切である 1人 Bまあ適切である 2人 C若干の改善が必要である 2人 D改善が必要である

- ・限られた財源や人員の中で努力されているが、実習の安全面を確保する意味でも十分な人員の確保(増員)を望む。
- ・現在の経営環境では独自での施設、設備の補強は困難であり、関係機関との連携強化を進め、施設整備や人材確保について対応策を検討する必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

A適切である 2人 Bまあ適切である 3人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

- ・オープンキャンパスや学校訪問等が積極的に行われている。

(8) 財務

A適切である **Bまあ適切である4人** C若干の改善が必要である1人 D改善が必要である

- ・非常に厳しい情勢下で努力されているが、充実した学習環境を確保するためにも十分な財政面での支援が必要である。

(9) 法令等の遵守

A適切である1人 Bまあ適切である4人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

- ・適切である。

(10) 社会貢献・地域貢献

A適切である **Bまあ適切である4人** C若干の改善が必要である1人 D改善が必要である

- ・学生のアルバイトを含め、地域貢献が行われている。
- ・学生の地域酪農家との交流の場、意見交換の場を設けてほしい。

3. 令和5年度の重点取組目標と計画について

- ①意欲ある学生の確保（県内外学校訪問・オープンキャンパス）
- ②学生個々の特性に合ったサポートの実施（学生生活・進路）
- ③運営体制の強化（関係機関との連携強化・牧場生産性の向上）
- ④酪農フィールド研修の充実（社会人）